

わさい 和裁

装

古来、受け継がれてきた日本の伝統衣装「和服」。
一枚の生地(反物)から、美しい着物を縫い上げる。



ここに技あり!!

着物は、表から見ても縫い目が見えません。それは柄にズレが生じないように重ねて縫う緻密な作業があって初めて成り立

ちます。一見派手で複雑な柄の方が難易度は高そうですが、実はごまかしが効かない分シンプルな反物の方が難しい作業です。仕立てた際の柄の配置も常に意識します。

日本の伝統衣装の「和服」を仕立てるのが和裁士です。反物と呼ばれる細長い1枚の生地から、色柄の配置などを考慮して、一針一針すべて手縫いで1枚の着物を完成させます。

着物はほとんどが直線縫いのため、基本の運針をいかにまっすぐに縫えるかが重要です。和裁学校などで着物や反物の知識や技術を学び、一人前になる

までにはおおむね5年を要します。技術を積み重ねれば花嫁衣装も縫えるようになります。

成人式、卒業式、結婚式には、和服を着ることが多く、最近は若い人たちが浴衣を着ることも増えています。手先の器用さだけでなく、高価な反物を丁寧に扱わなければならないなど、繊細さも求められる仕事です。

仕事の魅力

反物作りには、生地を織る・染める・作るなど、それぞれの工程に多くの職人がかかわります。反物の素材の魅力を最大限に活かし、着物の美しさを表現することが、和裁の最大の魅力です。

● 学ぶ

専門学校や和裁教室、和裁所に見習いに入る。

● 磨く

技能検定:和裁技能士1~3級

● 活かす

呉服店や仕立て屋に勤務するか、個人で仕事を請け負い自宅で和裁を行うこともできる。展示会や指導・講演で全国的に活躍する人もいる。